

(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は下げ止まりつつある。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は緩やかに減少している。
- ・ 雇用情勢は極めて急速に悪化しつつある。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)。

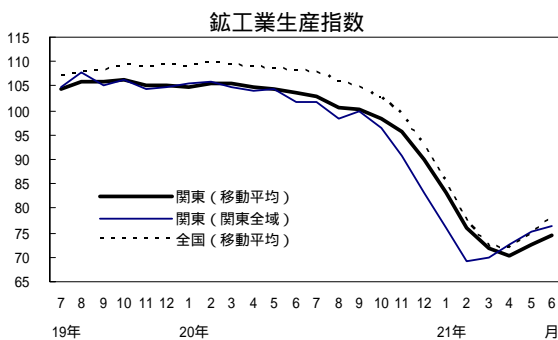
前回調査からの主要変更点

	今回(平成21年5月)	今回(平成21年8月)	
景況判断	緩やかに悪化	下げ止まりつつある	
鉱工業生産	下げ止まりつつある	緩やかに持ち直している	
雇用情勢	急速に悪化しつつある	極めて急速に悪化しつつある	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。(関東全域)

輸送機械は、普通乗用車及び小型乗用車を中心に上昇している。化学は、ポリエチレン及びフェノールなどで上昇している。一般機械は、フラットパネル・ディスプレイ製造装置などで減少しているものの、6月は半導体製造装置を中心に上昇している。電気機械は、医用X線装置や開閉制御装置などで減少しているものの、6月は自動車用電気照明器具を中心に上昇している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。関東の最新月は速報値。
2. 全国及び関東の大線は後方3か月移動平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

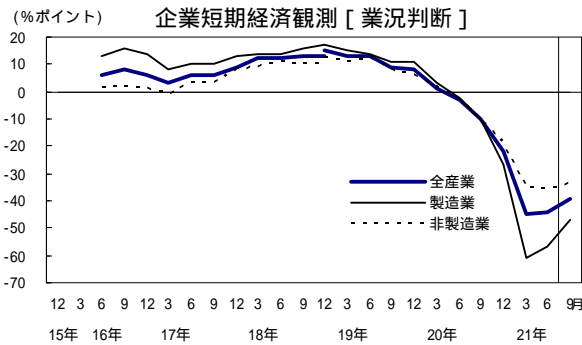
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
輸送機械	15.2	40.2	7.9	1.7	32.7
化学	13.4	5.9			
一般機械	13.2	32.4	15.2	15.6	6.5
電気機械	7.8	17.3	1.2	6.3	10.7
食品・たばこ	7.1	2.5			
鉱工業	100.0	20.4	4.0	3.3	5.6

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

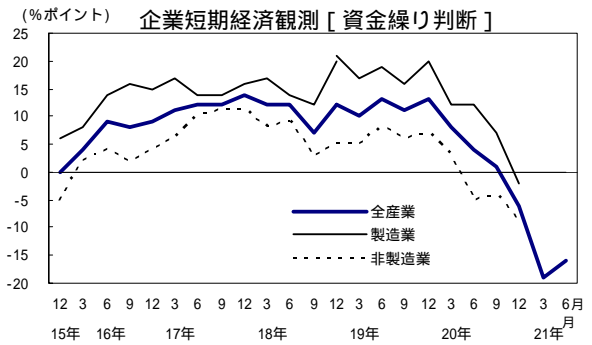
2. 4~6月期は速報値。化学、食品・たばこは、速報値では公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「苦しい」超幅が縮小している。

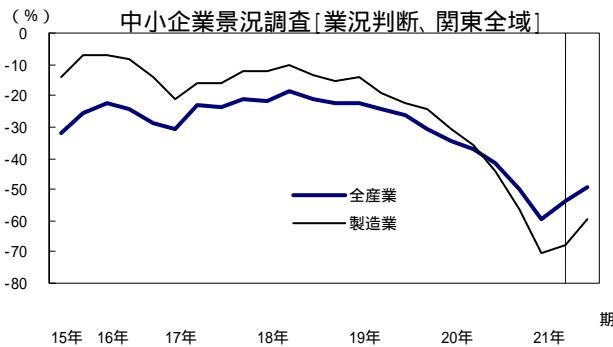
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。21年9月は予測。
18年12月は新・旧基準を併記。関東全域(新潟県を含む)



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月は新・旧基準を併記。日本銀行横浜支店管内。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

「設備投資関係の予算の見積が出てきたが、価格の競争が厳しく、安く見積ってもまだ決定に至っていない(金属製品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

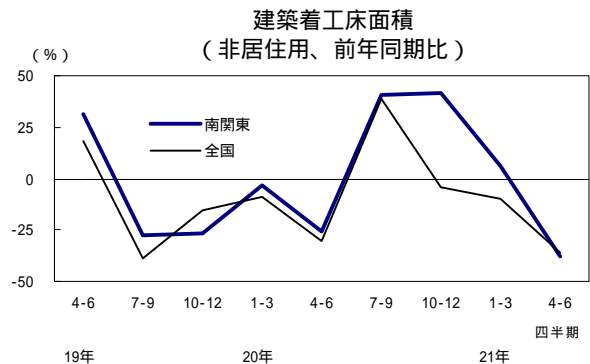
(3) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	20年度実績	21年度計画
全産業	8.7(0.3)	18.4(7.4)
製造業	11.5(0.4)	20.7(10.4)
非製造業	2.7(2.0)	12.8(0.6)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。

調査対象は神奈川県。



(4) 南関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに減少している。

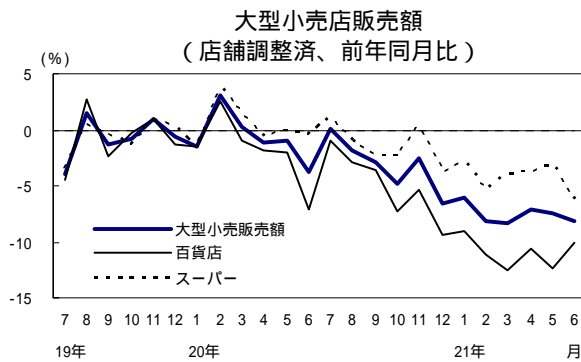
大型小売店販売額

百貨店は、4月は、下取りセールや物産展等は盛況であったが、衣料品及び身の回り品全体では引き続き低調であったことから、前年を下回った。5月は、雨が多く、レインシューズ等では動きがみられたものの、衣料品及び身の回り品全体では不振であったことから、前年を下回った。6月は、前倒しセールや中元のウェブ受注が好調であったが、紳士服を中心に衣料品全体では苦戦が続いたことから、前年を下回った。なお、日本百貨店協会によると、東京地区の7月の売上高は前年同月比13.4%減となっている。

スーパーは、価格強化策や生活催事の提案等により、飲食料品は比較的健闘したものの、引き続き衣料品が振るわず、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「昨年と比べて気温が下がっており、冷し中華、豆腐等の涼味商品の売上が前年割れを起している(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



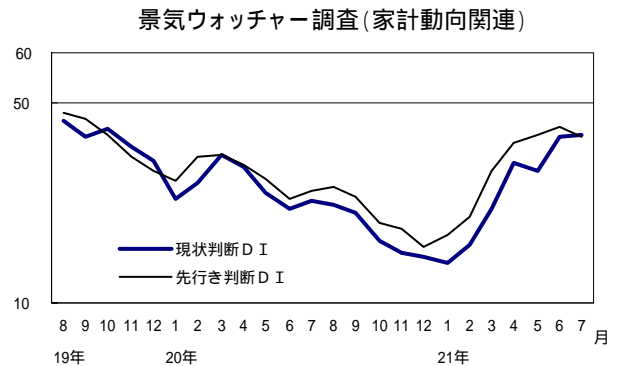
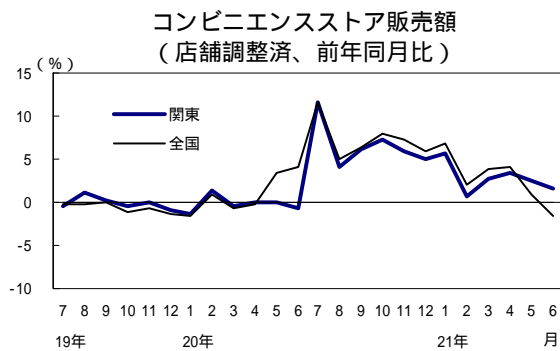
(前年同月比、%)

	20年7-9月	10-12月	21年1-3月	4-6月
大型小売店	1.5	4.8	7.4	7.5
百貨店	2.3	7.5	10.9	11.1
スーパー	0.7	2.0	4.0	4.3
乗用車	3.0	17.3	27.4	20.2
景気ウォッチャー	29.4	20.5	22.9	39.2

(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。21年4-6月期は速報値。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。

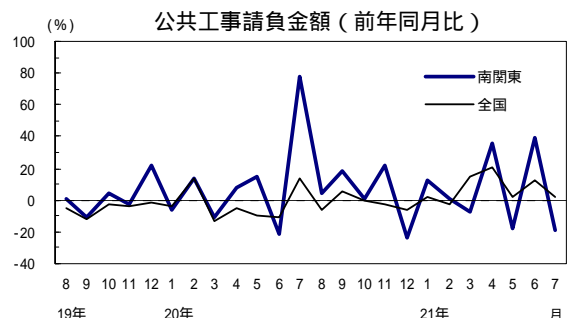
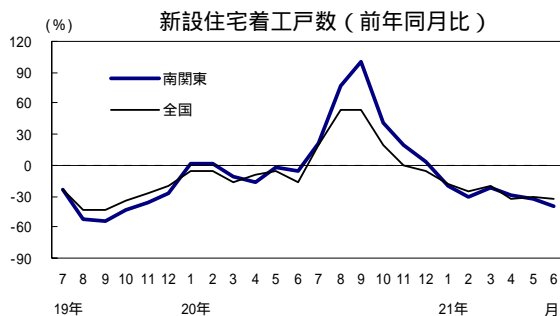
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

貸家、分譲が前年を大幅に下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は21年度累計で見ると前年度を上回っている。

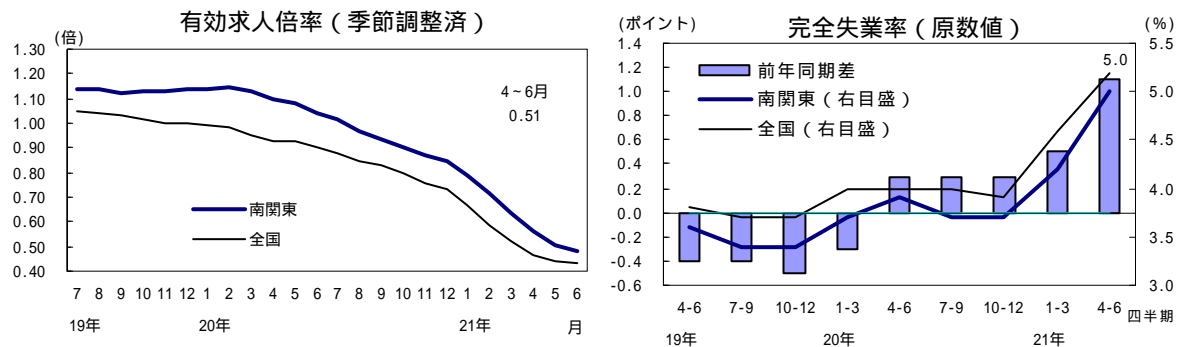


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は極めて急速に悪化しつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月) [雇用関連 (現状)]

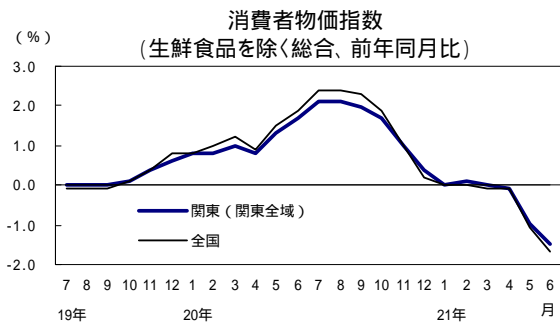
「新規求職者数の増加は落ち着きを取り戻しているが、求人数が少ない状況は変わらず、引き続き雇用情勢は厳しい (職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、負債総額は減少しているものの、件数が増加している。

(3) 消費者物価指数は下落に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	20年7-9月	10-12月	21年1-3月	4-6月	21年7月
倒産件数 (前年比)	1,211 19.3	1,212 16.1	1,321 28.1	1,249 12.2	476 15.8
負債総額 (前年比)	56,348 524.5	12,313 145.4	18,943 223.3	6,553 19.4	1,614 41.0



景気ウォッチャー調査 (7月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・マンションの完成在庫の販売スピードが、やや速まってきている (住宅販売会社)

<先行き>

・総選挙後にどう変わるか不明であるが、ここに来てマンション販売がやや上昇傾向に転じていることから、年末に向けては上向くと見込んでいる (通信会社)

